

女子の身体的理想像に関する研究 (その6)

——(膝の角度, 足の角度とそれらの美しさとの関係について)——

和 泉 貞 男

はじめに

戦前, 和服が多く見られた時代の女性は, 起居動作が緩慢で, 膝がややまがり, 足がやや内足の人が多かったが, 戦後は膝が伸び, 足がやや外足気味の女性が多くなった。特に最近若い女性の間には, ミニスカートをはく人が多くなったので, 膝から上の大腿部がよく自然に露出されることが多くなった。このため, 脚の太さや形, 膝や足の開き方が目につくようになった。

脚や足の開き方は姿勢の基本であって, それより上部の姿勢の良否をきめる基礎となるものであり, かつ教育的効果の大きいものであるから, 体育の場においても大いに取りあげべきものであると考える。

今回は, 前回の「歩行時の膝の角度とその美しさとの関係について」と順序が逆の感じであるが, 立位を正面からみての膝の開き (O脚, X脚) と, 足の開き (内足, 外足) とを対象とし, どのような開き方が最も美しい開き方であるかをしらべてみることにした。

I. 研究目的

女子の身体的理想像を姿勢の面からみる場合, 美しい姿勢をきめる重要な鍵と思われる, 立位時間の膝の開き方, 足の開き方の美しさを取りあげ, これを出来るだけ客観的, 数量的に検討することによつて, わが国青年女子の身体的理想像を求めるための一つの資料にしようとするものである。

II. 研究方法

研究の方法としては, 前回までと同様に, アンケート用紙を用いることとした。

この方法を略述すると次のようであった。

I) アンケート用紙の作成

(1) 研究の内容 (分析の対称となる部分)

立位姿勢を正面からみた時の膝の角度を普通×脚, O脚で表わし, 足の角度を内足 (うちあし), 外足 (そのあし) で表わすが, その角度を算出する計測については, はっきりしたものが見当たらない。筆者は, 一応次のような方法で膝や足の角度を計測することとした。

① 膝の開きの角度……正面からみて, 正中線上の胴部の最下点, 膝部で内側に最も突出している点, 踵部で内側に最も突出している点の3点を結び, この3点が外側方になす角を膝の角度とし, さらに左右の角度の合計をもって表わした。

② 足の開きの角度……足の内側で, 突出している2点を結ぶ直線の左右両方を延長し

て交わらしめることによって得た角度。(第1図)

(2) 写真撮影の条件

水着姿の被写体を、正面から 5 m の距離で、80 cm の高さから撮影した。

(3) アンケート用のモデルの作成

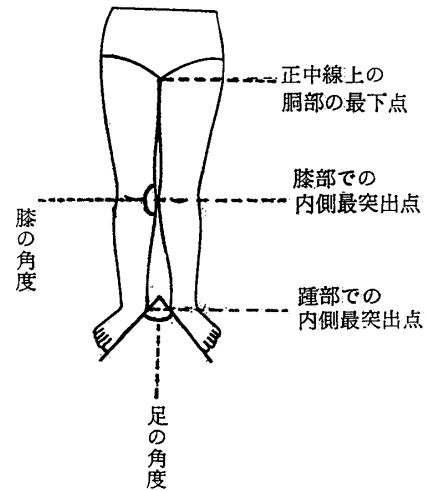
① 東京女子体育大学の1年生107名について、前記の方法で正面写真を取り、その写真像について前記の計測法によって膝の開の角度及び足の開きの角度を計測した。それぞれの \bar{X} , s を算出したところ、

膝の角度の $\bar{X}=359.00$ 度, $s=7.11$ 度

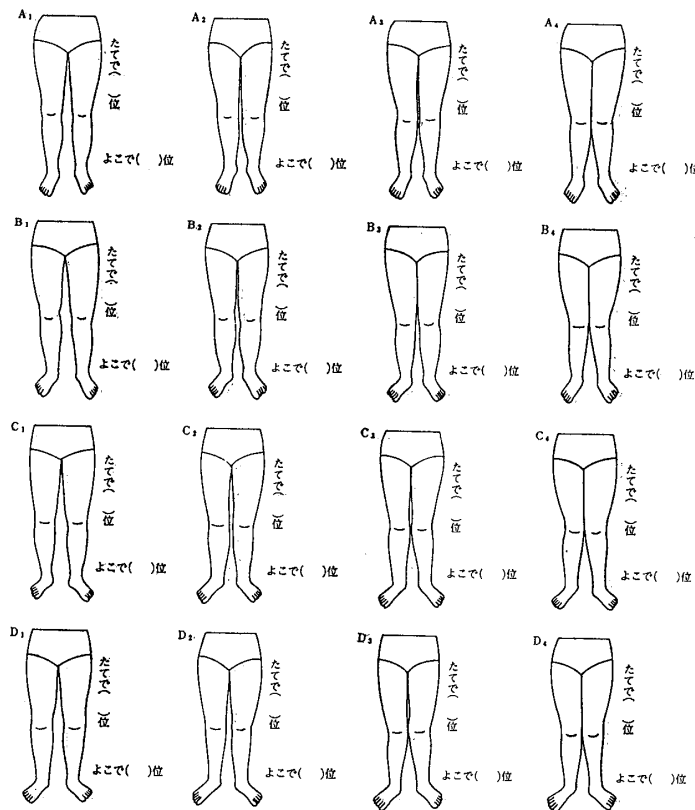
足の角度の $\bar{X}=72.02$ 度, $s=32.43$ 度

となった。

② \bar{X} を基準として、 $0.5s$ ずつの間隔で膝の角度、足の角度それぞれに4段階ずつ、



第1図 膝の角度と足の角度の計測点



第2図 女子の身体の美しさに関する調査

上の16個の図は正面からみでの、女子の膝の角度(O脚, X脚)と足先の角度(内足, 外足)を、いろいろ変えて書いてあります。この図を御覧になって次の方法で美しさの順位をつけて下さい。

(方法) 各モデル毎に、たて(4個)で1位から4位まで、よこ(4個)1位から1位までの順位をつけて下さい。

あなたの性(男・女) 年令()才

職業(会社員・公務員・主婦・学生・その他())

第1表 膝と足の角度と美しさとの関係

1971 東京女子体育大学

観 察 者		モデル	タイプ	A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	C ₁	C ₂	C ₃	C ₄	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄
		膝の角度	364.32	360.77	357.22	353.67	364.32	360.77	357.22	353.67	364.32	360.77	357.22	353.67	364.32	360.77	357.22	353.67	
			足の角度	47.70	47.70	47.70	47.70	63.91	63.91	63.91	63.91	80.13	80.13	80.13	80.13	96.34	96.34	96.34	96.34
男	10代 (N=80)	順位 点	9 4.89	5 5.86	4 5.98	11 4.73	14 4.11	3 6.03	1 6.25	8 4.94	15 3.90	6 5.44	2 6.09	12 4.59	16 3.16	10 4.78	7 5.01	13 4.26	
	20代 (N=113)	順位 点	9 4.72	3 5.82	6 5.26	12 4.37	14 4.23	4 5.77	1 6.55	8 4.82	15 4.09	5 5.60	2 6.08	10 4.71	16 3.73	7 5.25	11 4.68	13 4.32	
	30代 (N=94)	順位 点	8 4.98	2 5.78	5 5.48	10 4.80	16 3.98	3 5.70	1 6.47	9 4.85	12 4.46	6 5.45	4 5.49	11 4.60	15 4.09	7 5.30	13 4.32	14 4.28	
女	10代 (N=110)	順位 点	7 4.95	5 5.55	4 5.63	14 4.31	12 4.45	2 5.95	3 5.71	7 4.95	13 4.32	6 5.40	1 6.53	11 4.55	16 3.91	10 4.81	9 4.85	15 4.15	
	20代 (N=113)	順位 点	8 4.90	4 5.54	6 5.38	15 4.13	13 4.27	2 6.20	3 5.97	10 4.73	12 4.29	5 5.53	1 6.27	11 4.65	16 4.10	7 5.08	9 4.75	14 4.19	
	30代 (N=81)	順位 点	7 5.06	1 6.21	5 5.69	14 4.22	11 4.49	3 6.09	1 6.21	10 4.54	12 4.35	6 5.63	4 5.83	13 4.31	15 4.10	8 4.99	9 4.57	16 3.72	
計	合計 (N=611)	位順 点	8 4.90	4 5.77	5 5.53	12 4.41	13 4.26	3 5.95	1 6.19	9 4.81	14 4.23	6 5.51	2 6.07	11 4.58	16 3.86	7 5.05	10 4.70	15 4.17	

計 16 個のモデルを作成した。

③ 16 個のモデルを、左右が膝の角度の大小、上下が足の角度の大小によって順に並べたのが第 2 図に示すアンケート用紙である。

II] 美しさの評価

膝の開きの角度及び足の開きの角度についての美しさの評価は、次に示す順序で行なった。

(1) アンケート用紙を多数の観察者に配布し、たて（足の角度）よこ（膝の角度）それぞれに 1 位から 4 位までの美しさの順位をつけてもらった。

(2) 1 位を 4 点、2 位を 3 点、3 位を 2 点、4 位を 1 点と換算し、たて、よこの点数を合計してそのモデルの点数とした。

(3) 各モデル毎の美しさの点数を、観察者の性別、年齢別及びその合計について集計し、それぞれの平均点と順位を算出した。

(4) 観察者の性や年齢と美しさの評価との間にどのような関係があるかを調べた。

なお、観察者の性別、年齢別人員や各モデルの膝の角度、足の角度は第 1 表の通りであった。

II. 研究結果

前述の研究方法によって得た結果は、次のようであった。

I] 観察者の性別、年齢別にみた膝の角度、足の角度についての美しさの評価

観察者の性別、年齢別に膝や足の角度についての美しさの評価をしらべたところ、第 1 表に示すようになった。すなわち

(1) 観察者 10 代男、20 代男、30 代男及び 30 代女の 4 群においては、モデル B₃ が第 1 位であった。また、観察者 10 代女、20 代女の 2 群では、第 1 位は C₃ であった。さらに、全観察者の評価を合計すると、モデル B₃ が第 1 位であった。

(2) このモデル B₃ は、正面から 5 m の距離で、80 cm の高さでみたとき、膝の内側の角度の合計が 357.22 度、左右の足の角度が 63.91 度（実際の足の角度は、 $63.91 \times 17/90 = 12$ 度）度であった。

(3) この結果から、20 才前後の女子の肢を正面からみたとき、「膝がやや X 脚で、足がやや外足気味の開きかたが最も美しい」といってよいであろう。

2] 観察者の性及び年齢と美しさの評価との関係

観察者の評価が、性や年齢で相違があるのではないかと考え、しらべたところ次のようなことがわかった。

(1) 膝の角度の美しさの評価において、男子の観察者の評価と女子の観察者の評価とでは、いくらかの違いがみられた。すなわち、モデル A₁, B₁, C₁, D₁ 等の O 脚気味のモデルにおいては、全体として評点は低いのであるが、男子の観察者の評点が女子の観察者の評点に較べてより低かった。また A₄, B₄, C₄, D₄ 等の X 脚気味のモデルにおいては、男子の観察者の評点は女子の観察者の評点よりもより高かった。

このことは、一般的にみて、男子が女子に比較して、より以上に O 脚を嫌っていることを意味していると考えられた。

(2) 足の角度においては、膝の角度のように、観察者の性別による評価の相違がはつき

と認められなかった。

(3) 観察者の年齢別においては、膝の角度においても、足の角度においても評価の違いが認められなかった。

註

本研究は、本学助手片山道子氏および本学学生伊藤苗美、中田幸子、平田幸子の諸君の協力によってなされたものであり、また、この研究の概要を日本体育学会第 22 回大会で発表したことを附記する。

参 考 文 献

1. 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その1) 東京女子体育大学紀要 1967.
2. 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その2) 東京女子体育大学紀要 1968.
3. 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その3) 東京女子体育大学紀要 1969.
4. 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その4) 東京女子体育大学紀要 1970.